

## 夫とともに歩んだ 12 年間【1】

岩永 悦子

今年の3月4日医療・介護フォーラムで「夫と共に歩んだ 12 年間」と題し、12 年間の私の思いを発表しました。介護を終えた安堵感と寂しさが日毎に増してきますが、介護を通して家族会の皆さんやたくさんの友が出来、心の支えとなりました。

平成 28(2016)年 12 月 28 日、夫は 81 歳で亡くなりました。60 歳で会社を退職し、地域での民生委員を引き受けました。とても忙しく、よく区役所まで車で出かけていました。

世の為、人の為と地域活動にも参加し、穴生学舎の「年長者大学で健康と福祉コース」「ケナフの会」で多くの

方々と意欲的に学び、楽しんでいました。

69 歳の頃でした。「今日は民生委員の会議ですが、御主人いらっしゃいますか」と電話がかかり、慌てて出かけることができました。私との会話も「言ったでしょ」「聞いてない」とのやり取りが多く、おかしいなと感じていました。

### 平成 17 年

近くに脳神経外科の医師がおられ、犬の散歩等でよくお会いしていたようで、夫は「そんなにおかしいか?」と、受診をためらっていましたが、すぐに私と病院へ。

口頭質問では7つ答えました。MRIの検査で画像を見ながら、医師から「うん…ちょっと早いなあ…」、「初期の認知症です。脳が萎縮しています」と告げられました。

夫はどう思ったか、何も言いませんでしたが、ショックだったでしょう。アリセプト錠を処方され「グラウンドゴルフは続けて下さい」と。夫1人のゴルフは心配でしたので、私も道具を揃えてゴルフに参加しました。間違ったり、急に怒ったり、仲



間が工夫して下さって3年程続けました。

民生委員は診断のことを話し、期の途中で退くことにしました。私と区役所に行き、最後の挨拶で皆さんにはっきりと「お世話になりました。」と頭を下げ、区役所を後にしました。民生委員でよく食事をしていた店で私と昼食をとりました。「お疲れ様でし

たお父さん」と声もかけられず、涙が止まりませんでした。しばらくして感謝状が届けられました。

この頃「脳を鍛える名作読本」や「計算ドリル」「脳いきいき音読」の本を買い、二人で脳トレをしていました。古典落語の「寿限無」や金子みすずの「わたしと小鳥と鈴と」の音読もよくやりました。

### わたしと小鳥と鈴と

金子みすず

わたしが両手を広げても  
お空はちっとも飛べないが

飛べる小鳥はわたしのよう  
地べたを早くは走れない

わたしが体をゆすっても  
きれいな音は出ないけれど

あの鳴る鈴はわたしのよう  
たくさんな歌は知らないよ

鈴と小鳥と それからわたし  
みんな違って みんないい



## 夫とともに歩んだ 12 年間【2】

### 平成 20 年～21 年

認知症と診断されて3～4年、今まで自分で出来ていた洗顔や歯みがき、風呂もいやがり、洗髪もしなくなりました。口数も少なくなり、失くした言葉に戸惑い、「はい」「いいよ」「そうやない」と食事の前には「ありがとう」と、今でも声が鮮明に聞こえてきます。



食べ物は好き嫌いなく食べていましたが、大好きだったビール、お酒は飲まなくなりました。あんパンが好きで、よく買っていました。

認知症のことで何か相談窓口がないか、探している時、市政だよりで「認

知症介護家族交流会」の事を知り、参加しました。その時に「老いを支える北九州家族の会」に入会しました。必死の思いで交流会、つどい、もりフォーラムに夫と2人で参加しました。夫は何のためらいもなく、出かけていま

した。「どうして話せないの」「何で出来ないの」と交流会で苦しい体験を語り、他の家族の悩みを聞き、つらいのは自分だけじゃないと気持ちが軽くなり、もう少し頑張ってみようと・・・

その頃、今穀茂さんのCD「親父のラブソング」をよく聞いていました。ソフトな歌声で心が癒され、素敵な詩です。



## 夫とともに歩んだ 12 年間【3】

平成 22 年 12 月、夫が 75 歳のとき、忘れることのできない出来事がありました。近所に届いた生協の品を私が取りに出たわずか数分の間に、行方不明になりました。近くを捜しましたが見つからず、夫の妹が車で近所を捜しても見つからず、不安と混乱で認知症コールセンターに電話しました。

認知症コールセンターで「警察にTELして下さい」と言われ、すぐに警察に電話しました。警察に夫の写真を渡して、捜していましたら、4時間後に「戸畑駅で見つかりました」と連絡があり、事なきを得ました。普段着で、サンダル姿、お金も持ってなく、若松から戸畑駅まで、どんな方法で行ったのか、解りません。家に着いた時の夫の笑顔は、心配して集まって下さった



皆さんへの感謝だったのでしょうか。

次の日「お父さん、昨日戸畑まで行ったね」と声をかけると「そうやったん」とすっかり忘れていました。近くの民生委員、市民センターの館長、「家族の会」の方々にご心配をかけました。

買い物はほとんどふたりで近くのスーパーに行っていました。夫は、足が丈夫で歩くのが速く、朝早く、寝間着姿でバス停に立っていたり、近所を歩き、油断できませんでした。

介護認定2で週2回デイサービスを利用していましたが、帰宅してからも玄関を開け出て行っていました。

先月号で紹介した夫が認知症になってよく聴いていた今柄茂さんのCD「親父のラブソング」のなかの「Message～道しるべ～」を紹介します。



## Message～道しるべ～

詩 今般茂/曲・編曲 大内義昭

別れ際 雨粒の窓を開け 僕が道しるべになると  
かっこつけ 胸張って告げた日が 昨日の様に聞こえる

支える力で生きた時 支えられて生きる時

繰り返し 繰り返し 季節を重ねて  
信じあえる日々は 今も続くよ  
これからも ずっとずっと 歩いて行けるさ  
初めに決めた事さ 強く育てた愛だから

小さな手 幾度なく見てきたが 二人で道しるべになると  
この胸とその瞳に誓った日が 昨日の様に思える

二人で育てた愛だから 二人で繋いだ命だから

この星で この星で 一つの君だよ  
道しるべになれるよう 生きてほしい  
過ちを笑いながら話す人には 決して育たないで  
強く 優しく 受け止めて

繰り返し 繰り返し 季節を重ねて  
信じあえる日々は 今も続くよ  
これからも ずっとずっと 歩いて行けるさ  
初めに決めた事さ 素敵に咲いた花だから

